

函館市子ども会議

概要・意見

1 函館市子ども会議の概要

① 函館市子ども会議について

函館市子ども会議は、子どもたち自身が、子どもに関係する施策やまちづくりに関すること等について話し合い、意見発表することで社会参加してもらうことを目的としています。

2019年度は、テーマ「もっとたくさんの人に縄文文化を見てもらうためには？」をテーマに、学芸員の講義と見学を受け、子どもたちでグループワークを行い、意見をまとめて市に発表します。

② 会議日程・開催場所

内容	時間(予定)	概要
自己紹介	9:05～9:20	参加する子どもたちと職員でグループに分かれ、自己紹介をかねたレクなどをします。
講義	9:20～9:50	学芸員から「縄文文化とその魅力」「世界遺産登録に向けた函館市の取組」などについてお話していただきます。
見学	10:00～10:30	学芸員から縄文文化と函館市の特色についてお話を聞きながら、縄文文化交流センターの見学をします。
グループワーク	10:30～12:00	講義と見学をとおして感じたことなどを、グループのみなさんで話し合い、縄文文化をもっと多くの人たちに見てもらうために「自分たちができること」「函館市役所にやってもらいたいこと」をまとめ、発表練習をします。
発表	12:00～12:20	グループでまとめたことを発表します。

開催場所：縄文文化交流センター

③ 講師

函館市教育委員会生涯学習部文化財課

主査 福田 裕二

④ 参加者

磨光小学校、白尻小学校、大船小学校の小学5・6年生を対象に募集し、19名が参加しました。

(参加者内訳：磨光小学校10名、白尻小学校3名、大船小学校6名)

⑤ 参 考「函館市子ども条例」（平成28年4月1日施行）

この条例は、子どもや子育て家庭の支援に関する理念条例であり、市の責務や保護者、学校、住民、事業者の役割を明らかにするとともに、市の施策の基本となる事項を定めています。

>>第18条（子どもの社会参加）

市は、子どもに関係する施策について子どもが意見を表明できるようにするなど子どもが社会参加をする機会を設けるよう努めます。

2 函館市子ども会議の開催

テーマ

「もっとたくさんの人に縄文文化を見てもらうためには？」

函館市子ども会議では、学芸員から縄文文化の魅力やユネスコ世界文化遺産登録に向けた函館市の取組み、また縄文文化交流センターの展示などについて解説を聞くことで、縄文文化の魅力や、函館市の取組のイイところ・イマイチなところを見出し、函館市の縄文文化をたくさんの人に見てもらうために必要な方法を考えます。

子ども達が考える方法は『自分たちができること』『函館市役所にやってもらいたいこと』の2つに分けて発表します。

1 自己紹介・アイスブレイク

- ・自己紹介
- ・アイスブレイク

2 講義

- ・学芸員から縄文文化の魅力やユネスコ世界文化遺産登録に向けた函館市の取組などについて聞く。
- ・わかったこと、気づいたことなどをメモする。

3 見学

- ・学芸員の解説を聞きながら、縄文文化交流センター内を見学する。
- ・わかったこと、気づいたことなどをメモする

4 グループワーク

- ・講義と見学をとおして気づいたこと・感じたことなどをグループで発表用模造紙に出しあう。
- ・意見を出しあう中で、函館市のイイところ（長所）やイマイチなところ（短所）をみつける。

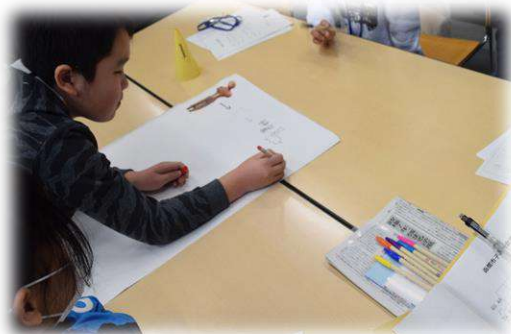
- ・イイところをもっと伸ばすため方法を、イマイチなところは改善するための方法を考える。
- ・考えた方法を発表用模造紙に「自分たちができること」または「函館市にやってもらいたいこと」としてグループ分けする。
- ・発表練習をする。

5 意見発表会

- ・まとめた意見の発表を行う。

3 函館市子ども会議の様子

自己紹介・アイスブレイク



講義



見学



グループワーク



意見発表



函館市子ども会議

意見発表内容

※一部、文言等に修正を加えています。

まが玉

気づいたこと・感じたこと

縄文時代は人や動物などに
感謝して大切にしている。

縄文人は
全部を大切に
使っていた。
縄文人は動物の骨や
土の器などを大切に
かんししていた。

自分たちの仲間・食べ物に
まいりをして、動物にも
まいりをして（おんぎつな）
があった。

いろんな器を作って
下痢にくらしていた。

今使っているほとんどが縄文
人のもたせてきていたモノ

色々な器、モノがあって
見ながら楽しくわがらと
思った。

土器や縄文時代の器は、その
用途や大きさによって、形状が
決まっていた。そして、その
大きさや形状によって、用途
が決まっていた。

縄文時代の器は、その
用途や大きさによって、形状が
決まっていた。そして、その
大きさや形状によって、用途
が決まっていた。

縄文時代の器は、その
用途や大きさによって、形状が
決まっていた。そして、その
大きさや形状によって、用途
が決まっていた。

土器は、ご飯などを煮る以外
にも儀式や祭りなどにも
使われていた。



自分たちができること



縄文時代の器は、その
用途や大きさによって、形状が
決まっていた。そして、その
大きさや形状によって、用途
が決まっていた。

縄文時代の器は、その
用途や大きさによって、形状が
決まっていた。そして、その
大きさや形状によって、用途
が決まっていた。

また使えるモノなどです。すでに
大切に使い、使えなくなるとも
リサイクルしたり他のことに使う

今は自分で生きていけるのが
当たり前だけど、いつかなくなる
かもしれない。感謝したり、残したり
しないようにする。

物を大切に、使って、大事に
して、こめ入らないようにする。

函館市役所にやってもらいたいこと

縄文時代の本を、作ったり、使
ているモノが全部なくなるとい
うのが、とても心配している。
そのために、物の大切さを伝える。

縄文時代のモノは、その
用途や大きさによって、形状が
決まっていた。そして、その
大きさや形状によって、用途
が決まっていた。

縄文時代の器は、その
用途や大きさによって、形状が
決まっていた。そして、その
大きさや形状によって、用途
が決まっていた。

ゴミを適切に処理し、毎日やる
ように、声かけやかんぱんなど
をしたり、つなぐ、だりしてほしい。



グループ 1 (グループ名：まが玉)

気づいたこと・感じたこと

- ・縄文人たちは、人や動物、物に感謝して大切にしていた。
- ・縄文の人々は、全部を大切に生きていた。
- ・縄文人はかりなどに使っていた犬や動物たちに感謝していた。
- ・自分たちの仲間や動物にいていねいなまいそうをされていて思いやりがあった。
- ・みんな協力して平和に暮らしていた。
- ・今、使っているほとんどの物が縄文人のちえでできている物。
- ・土器が新しいものになるにつれて、だんだん小さくなってきているような気がしたので、軽くあるいは小さくしたかった、もしくは材料が減ったからなのではと思った。
- ・最近問題の天然のものがとりすぎでとれなくなっている問題に、縄文の時も気を付けていたんだなと思った。
- ・土器は、ご飯などを食べる以外にも儀式や祭りなどにも使われていた。
- ・色は全部同じものだと思ったが、うるしやヒスイで色を分けていて、昔から色の種類にも気を使っていたことにおどろいた。
- ・縄文文化交流センターでは縄文時代の色々なこと、物について、見ながら楽しくわかんと思った。

自分たちができること

- ・現在、もの・食料・動物・人など、ほとんどが縄文時代とは真逆な行動をしているので、縄文人の人々の暮らし方などを伝える。
- ・大切にしてきた自然、道具を守り、今後も残せるようにゴミのポイ捨てをしないようにする。
- ・まだ使える物などを捨てないで大切に使ったり、使えなくてもリサイクルしたりする。
- ・今は食べて生きていけるのがあたり前だが、いつ無くなるかわからないので、感謝し、食べ物を残さないようにする。
- ・物を大切に使って管理することで、こわれないようにする。

函館市役所にやってもらいたいこと

- ・縄文時代の本を作ったり、今使っている物が全部なくなったらどうなるかの話をしたりして、物の大切さを伝える。
- ・町の清そうのイベントを行ったり、山にゴミを捨てる人への注意をしてもらい、町や山をきれいにしてほしい。
- ・インターネットはいしんやチラシなどを通してたくさんの人々に縄文の良さを広め、伝えることで、縄文土器や中空土ぐう・カックーなどの認知度を上げてほしい。
- ・ゴミを道ばたや海に捨てないよう、声かけをしたりかんばんなどを作ったりしてほしい。

土笛

気づいたこと・感じたこと

（Faint handwritten text on an orange sticky note)

（Faint handwritten text on a yellow sticky note)

（Faint handwritten text on a pink sticky note)

（Faint handwritten text on a light blue sticky note)

（Faint handwritten text on a light green sticky note)

（Faint handwritten text on a blue sticky note)

（Faint handwritten text on a pink sticky note)

（Faint handwritten text on an orange sticky note)



自分たちができること

（Faint handwritten text on a yellow sticky note)

（Faint handwritten text on a light green sticky note)

（Faint handwritten text on a pink sticky note)



（Faint handwritten text on a blue sticky note)

（Faint handwritten text on a light blue sticky note)

函館市役所にやってもらいたいこと

（Faint handwritten text on a yellow sticky note)

（Faint handwritten text on an orange sticky note)

（Faint handwritten text on a pink sticky note)

（Faint handwritten text on a light green sticky note)

（Faint handwritten text on a blue sticky note)



グループ 2 (グループ名：土笛)

気づいたこと・感じたこと

- ・縄文人は家族や食べた動物などの骨をていねいにならべて墓にうめていた。
- ・黒曜石が多く、おもに石を使っている。
- ・うるしが多く使われていた。
- ・アスファルトは縄文人が見つけた。
- ・争い事もなく助け合って生きていた。
- ・動物も家族のような存在。
- ・シカの絵画土器を初めて見たので、とても心に残った。
- ・かりをするときは、ゆみやおとし穴で動物を捕まえる。
- ・まが玉にもヒスイが使われているのを知って、すごく勉強になった。
- ・なんでも自分たちでやっていた。
- ・生活が計画的だと思った(こわすために土ぐうを作る、漁を春夏秋冬に行うなど)。
- ・子どもたちのめんどろは全部おじいちゃんとおばあちゃんがみていた。
- ・世界遺産登録のためにがんばっている。

自分たちができること

- ・ポスターを作って店などにはってもらう。
- ・中空土ぐうや縄文土器の写真をとったり、イラストを描いたりしてポスターにはる。
- ・縄文についてくわしく調べて、出てきたぎもんを発表することでみんなにも好きになってもらう。
- ・土器や土ぐうへの知識を深めて多くの人に知ってもらう。
- ・学校の行事などで縄文の事について色々と調べて友達や先生方にアンケートをとり、縄文の何が知りたいかを書いてもらい自分たちが伝える。

函館市役所にやってもらいたいこと

- ・縄文についてもっと広報をしてもらいたい。
- ・縄文時代の体験などができるイベントを開いてもらいたい。
- ・子どもも興味を持ってもらえるような、大きくして縄文時代と同じような体験ができる施設を作る(展示しているものを見てからタイムスリップみたいな)。
- ・テレビや新聞などに縄文のことを載せてもらう。
- ・外国人にも縄文文化をもっと知ってもらいたいので、歩いたりして色々な土ぐうのスタンプを置いて、そのスタンプを押すことができれば縄文メダルをプレゼントする。



土くうグループ



気づいたこと・感じたこと

手際が違って、手際よく作られた
焼酎は、おもしろい。いろいろ
飲んで、気づいたこと、感じたこと

おし、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

いろいろの手や足の力が
あつたけど、人の手が足りない。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

焼酎、おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。



自分たちができること



おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

函館市役所にやってもらいたいこと

武器を捨てる。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。

おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。
おもしろい、おもしろい。



グループ 3 (グループ名：土ぐう)

気づいたこと・感じたこと

- ・戦争をしないで平和に暮らせていた縄文人は本当にすごいと思った。現在の人も縄文人のようになればいいのに。
- ・船やあみなどは縄文時代からずっとあった。知えは続くと思った。
- ・弓や矢、落とし穴などを使ってかりをしていた。
- ・いろいろな手や足のかたがあり、人の手や足はすごく大切だと思った。
- ・カックウがけっこう近くで見られるところが良いと思った。
- ・一番古い土器。大きさは小さいものから大きいものまで色々。
- ・いろいろな土器などの説明が細かく書いてあって良かった。
- ・縄文土器のなわのもようがかっこうなどの人形に入っているのが良かったと思う。
- ・縄文土器がどんどん新しくなっていて良いと思った。
- ・シカ絵画土器がつめみみたいな形をしていた。
- ・縄文時代は1万年続いていた。
- ・生き物に感謝したり、死んだ人をていねいにうめたりしているところを見ていたら、人っていつの時代も変わらないと思った。
- ・頁岩石がすごくとがっていて痛そうだと思った。
- ・戦争がない。豊かなくらし。助け合うくらし。なんでなかったか。
- ・かりをするために家ごと移動しながら生活していた。

自分たちができること

- ・みんなが縄文人のように命を大切にする。
- ・みんなが安心安全で健康にすごす。
- ・仲間われしないで助け合ってくらす。
- ・戦争になったりする物を持たない。

函館市役所にやってもらいたいこと

- ・武器を捨てる。
- ・はたに書く、プリントを配る。それで縄文の良さを伝える。
- ・縄文文化交流センターがただの道の駅だと思われているのもっと目立つかんばんをたてたりする。
- ・自分からわかりやすくいろいろな人ところ流する。
- ・着ぐるみを縄文文化交流センターの外に立たせて、車に乗っている人にもセンターがわかるようにする。
- ・チラシなどを配ったりする。

土器グループ

気づいたこと・感じたこと

単に争かなく
助けあってくらししてい
た。

小さい土器が
大器へと変わっ
てくると感じた。

昔の物で、今につな
がっている。

土器や石器は、今も残っ
ている。

縄文人は
物を大切にす。

縄文時代に使っていたものが
今の時代まで残っている。

子どもの足や手形を
残していた。



小さい子どもの面どう
をみるのは、老人といっ
たのだった。

おまわりおとしなど
おかしなことをして、
たのしが多かった。

自然を大事にしなからくらし
ていた。

自分たちができること



友達などに
縄文のことを家族た
いづらせたります。

自由研究で
やる。

函館市役所にやってもらいたいこと

縄文遺跡群が世界遺産に登録
されたら、生活のしぐさや作りか
たを知りたい。

イベントを増やして、
みんなに縄文・遺跡を
知ってもらおう。



グループ 4（グループ名：土器）

気づいたこと・感じたこと

- ・戦争がなく、助け合っくらしていた。
- ・縄文人は物を大切にする。
- ・小さい子どもの面どうを見るのはお年寄りということがわかった。
- ・縄文時代に使っていたものが今の時代まで続いている。
- ・あみや落としあなどを使ってかりをしていたのがすごい。
- ・昔の物が、今につながっている。
- ・子どもの足や手型を残していた。
- ・自然を大事にしながらくっていた。
- ・土器や石器にも気持ちがはいっている。
- ・小さい土器から大きい土器までてんじしていた。

自分たちができること

- ・友達などに縄文のことを教えたり知らせたりする。
- ・自由研究で取り組む。

函館市役所にやってもらいたいこと

- ・縄文遺跡群が世界遺産に登録されたら、私たちの生活へのえいきょうを少しでもへらしてほしい。
- ・イベントを増やして、みんなに縄文遺跡を知ってもらおう。



HAKODATE